

臓器移植推進 協会だより

第33号

(発行者)

公益財団法人栃木県臓器移植推進協会
理事長 稲野 秀 孝

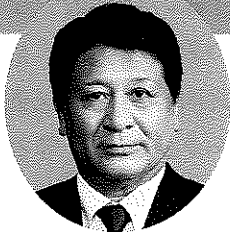
(編集責任者)

企画委員長 村 山 直 樹

(事務局)

宇都宮市昭和1丁目3番10号
栃木県庁舎西別館4階
TEL 028-625-7350
FAX 028-625-7362

「巻 頭 言」



公益財団法人栃木県臓器移植推進協会 理事長 稲野 秀 孝

臓器移植推進協会だより第33号（令和4年度版）の発刊にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

関係者の皆様には日頃より当協会の事業運営に関しまして、格段の御指導御鞭撻を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、平成9（1997）年10月の「臓器移植法」の施行後、これまでに全国では、889例（令和4年12月末現在）の脳死下での臓器提供例が報告され、本県においても16件の脳死下での臓器提供と、11件の心停止後の提供があるなど、徐々にではありますが移植医療が着実に推進されつつあると考えております。

一方で、県内の腎臓移植希望者は昨年12月末現在で208名、他にも心臓、肺、肝臓、脾臓及び小腸など、依然として多くの方が臓器移植を待ち望んでいる状況にあり、今後とも、県民への臓器移植の理解を深める普及啓発活動をより一層充実させる必要があると考えているところです。

当協会では、毎年10月の臓器移植普及推進月に県、医療機関、患者団体、ライオンズクラブなどのご協力をいただき、街頭キャンペーンを開催しておりますが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県央・県南地区において、県及び事務局のみで実施するなど、例

年に比べ、活動内容が制限されてしまいました。

しかし、マスメディアを利用した啓発活動や、臓器移植推進月間をPRするための懸垂幕の掲示、宇都宮タワーのライトアップ及びプロスポーツチームとのオリジナリティ豊かな共同企画を実施するなど、県民の皆様にも、臓器移植に関する理解を深めていただくため、できる限りの事業を積極的に展開したところです。

また、小・中学生や高校生などに移植医療を通じて命の尊さを学んでいただくために実施している「命の学習会」事業につきましては、感染症拡大前よりも多い11学校3団体で開催することができました。今後、一日も早い収束を待ちながら普及啓発活動を実施していく予定です。

当協会は、公益財団法人に移行して11年目を迎え、今後とも臓器移植の普及啓発活動の充実や、移植医療を円滑に実施するための事業を幅広く実施し、より公益性の高い法人として発展して参る所存であります。

結びに、医療機関をはじめとする関係機関、団体の皆様はもとより、県民の皆様には臓器移植の推進に向けて、更なる御理解と御支援を賜りますようお願いを申し上げます御挨拶とさせていただきます。

臓器移植推進会議（企画委員会）活動

委員長 村山 直樹（協会理事）

本会議は、臓器移植推進事業の一層の充実を図ることを目的に、平成27年度から従来の企画委員会を「栃木県臓器移植推進会議」として拡充し、今年度で第8回目となる会議を開催いたしました。

今回も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面による会議といたしました。栃木県臓器移植推進事業の現況や今後の取組について、各委員に提示させていただき、令和4年度事業の実施状況や令和5年度の事業計画案について承認いただいたところです。

令和4年度の意思表示カード普及啓発事業において、県、県透析医会、腎友会及びライオンズクラブ等に御協力をいただいて毎年実施している「街頭キャンペーン」が、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県央（宇都宮市）・県南（佐野市）の2地区だけで県と事務局のみでの小規模開催となりましたが、いちご一会とちぎ国体及び全国障害者スポーツ大会が開催されたことで会場での啓発活動を実施することができました。

また、臓器移植への理解を深めるため、命の大切さについて中・高校生他を対象とした講座「命の学習会」については、新型コロナウイルス感染拡大前よりも多い11の学校と3つの団体から申込があり、感染防止に留意した上で実施できました。

人気プロスポーツチーム「宇都宮ブレックス」との共同企画事業である、有名選手等を「栃木県臓器移植推進サポーター」に任命し、普及啓発活動の一役を担っていただくこと、更に1～3月に開催された試合の会場において、オリジナル意思表示カードを入場観戦者に配布する事業について実施することができました。

コーディネート活動奨励事業では、院内移植コーディネーターの皆さんに対し、円滑な情報連絡・相談体制等を構築するための研修を実施していますが、感染症の影響で2年間開催できなかったところですが、今年度は研修会を2回開催することができました。

そのほか、支援型飲料自動販売機設置事業については、現在7台が稼働しています。

次に、令和5年度の事業計画については、感染症の動向によりますが、「臓器移植普及推進街頭キャンペーン」や「命の学習会」など、従来からの普及啓発事業の着実な実施、また、プロスポーツチームとの共同企画の継続実施や、日本臓器移植ネットワーク、栃木県等との連携を強化し、各事業を幅広く実施するとともに、支援型飲料自動販売機の設置促進を図ること、マスメディアの効果的な活用などについて提案し、承認されました。

透析委員会活動

委員長 齋藤 修

透析委員会では、県内の透析医療機関の協力を得て、毎年12月末日時点での「人工透析医療実態調査」と、新たに透析療法を導入された患者さんの状況について、患者匿名により医療機関から報告していただく「透析導入調査」を行っています。

両調査の結果につきましては、それぞれ分析の上統計処理したものを公表し、行政の腎不全対策や、透析医療の質の向上に役立たせていただいております。

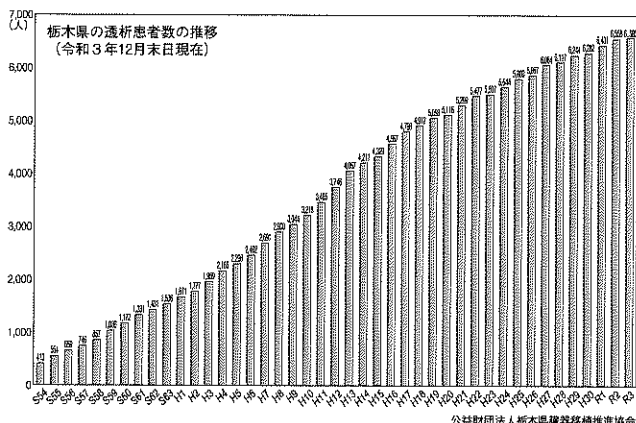
今年度の委員会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面による開催とし、令和3年分の調査結果の分析と、令和4年分の調査実施計画の策定を行いました。

令和3年分の調査結果につきましては、その

一部（透析医療機関と透析患者の動向、腎臓移植の現況等）を本紙に別掲しておりますが、全透析患者数は令和2年より22人増加し6,580人、平均年齢は68.7歳でした。急激な増加の時代は終わり、なだらかな増加傾向が続いています。原疾患別では、糖尿病性腎症が45.3%、慢性糸球体腎炎（ネフローゼを含む）が26.8%と多くを占めています。また、1年間の透析導入患者数は839人、平均年齢は69.93歳でした。

各透析医療機関におかれましては、実態調査の趣旨を御理解いただき、記入上の注意等を確認の上、記入もれや誤記入のないよう、よろしく御協力をお願いしたいと思います。

今後とも、透析委員会の活動に御理解と御協力をお願いします。



できごと

臓器移植普及推進月間における「街頭キャンペーン」

当協会の普及啓発活動の主な事業の一つであります「街頭キャンペーン」は、栃木県、透析医療機関、栃木県腎友会、ライオンズクラブ等関係団体の協力をいただき、10月の臓器移植普及推進月間に併せて、県内3か所で実施していました。

しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県央地区及び県南地区だけで、県及び事務局のみの体制で小規模に開催しました。

[県央地区] 宇都宮市・オリオン通りイベント広場

10月2日（日）、昨年に引き続き「オリオン通りイベント広場」で開催しました。県から2名、事務局2名の4人体制で、本県オリジナルの「臓器提供意思表示カード付きリーフレット」に啓発グッズ（エコバッグ）をセットにしたものを配布しました。また、同様の理由から毎年実施しているアンケート調査も今年度は中止としました。

感染防止に努めながら、300セットを配布しました。



[県南地区] 佐野市・イオンモール佐野新都市店

10月15日（土）、屋内スペースをお借りしてキャンペーンを実施しました。県から1名、事務局2名の3人体制で、「臓器提供意思表示カード付きリーフレット」と啓発グッズ（エコバッグ）のセットを配布しました。

感染防止に注意しながら、300セットを配布しました。



[いちご一会とちぎ国体・全国障害者スポーツ大会]

宇都宮市・総合運動公園

10月5日（水）に、いちご一会とちぎ国体開催中の総合運動公園特設会場において啓発活動

を行いました。当日はあいにくの雨でしたが、300セット配布することができました。

また、10月29日（土）には、全国障害者スポーツ大会開催中の総合運動公園特設会場において啓発活動を行い、晴天の中500セット配布しました。

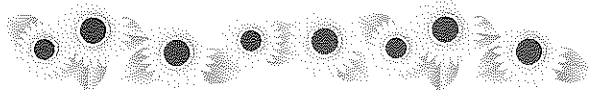


宇都宮ブレックス・ホームゲームにおけるキャンペーン開催

宇都宮ブレックスにおかれましては、普及啓発ポスター及び意思表示カード付きリーフレット作成など数多の御協力をいただいております。

令和5年1月21日（土）に宇都宮市体育館（ブレックスアリーナ）で開催されたホームゲームにおいてキャンペーンを実施し、令和5年3月18日（土）には同じ会場でキャンペーンを実施する予定です。

意思表示カード付きリーフレットを入場者全員に配布したほか、ポケットティッシュを当協会ブースで配布し、普及啓発を行いました。

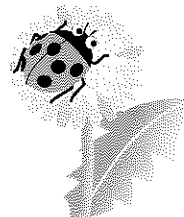
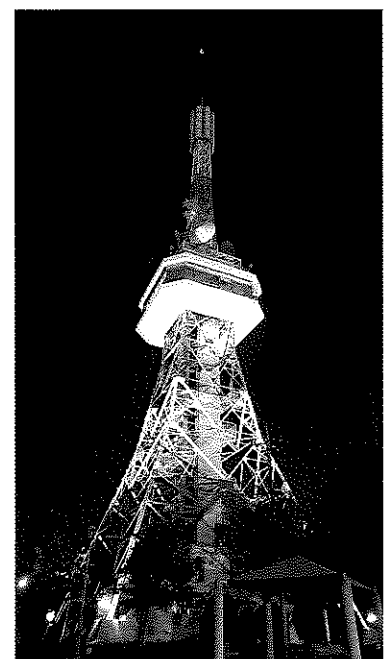


「県庁施設への懸垂幕の掲示」 「とちまるくん人形への飾りつけ」

昨年度に引き続き10月の臓器移植普及推進月間に合わせて、県庁北別館に「10月は臓器移植普及推進月間です」と書かれた懸垂幕を掲示し、来庁者や通行する方々への周知活動を行いました。

また、県庁正面玄関のとちまるくん人形に推進月間を知らせる飾りつけを実施し、来庁した方々への周知をいたしました。

宇都宮タワーのライトアップについては10月1日から31日までの間、宇都宮タワーをグリーン色でライトアップすることができました。



命の学習会（令和4年度）

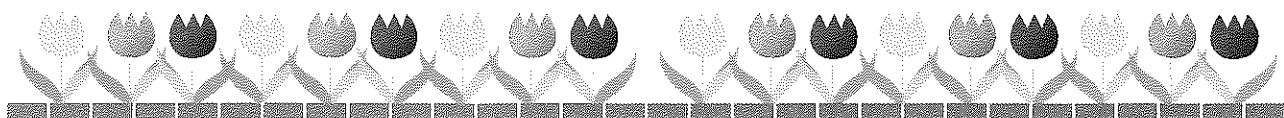
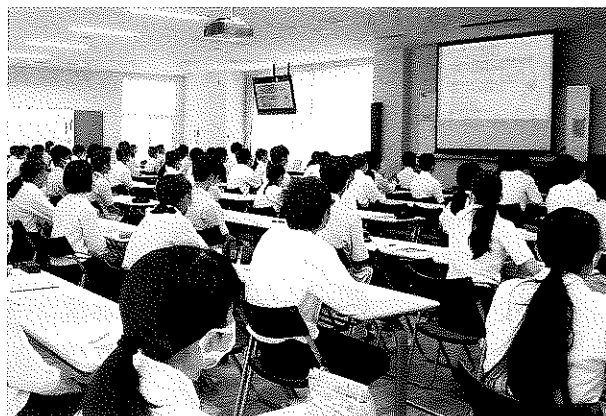
命の学習会講師派遣事業は、小学校・中学校・高等学校などの児童・生徒に臓器移植医療を通じて、命の尊さや大切さを理解してもらうため、平成20年度から実施しております。

令和4年度は11学校3団体で実施致しました。

- 県立宇都宮東高等学校附属中学校 3学年 (103人) 医療従事者の講話
- 那須塩原市立日新中学校 1～3学年 (263人) 「道徳」関連授業
- 那須塩原市立黒磯中学校 1学年 (71人) 「道徳」関連授業
- 那須塩原市立東那須野中学校 1～3学年 (307人) 「道徳」関連授業
- 佐野日本大学高等学校 1年 (371人) 「道徳」関連授業（移植経験者の講話）
- 日光市立栗山中学校 3学年（2人）「道徳」関連授業
- 上三川町立本郷中学校 3学年（96人）「公民」関連授業 新しい人権・自己決定権
- 佐野日本大学中等教育学校 中学3年生 高校2年生（126人）「人権」週間関連授業
- 栃木市立皆川中学校 1～3年（76人）学校保健委員会関連授業
- 日光市立小来川中学校 1～3年（10人）「道徳」関連授業
- 那須町立那須中央中学校 2年（90人）「那須町 命の週間」関連授業
- 足利市生涯学習課 女性学級 一般市民（20人）人権講座
- 足利市織姫大学講座 一般市民（50人）健康を守る－免疫抑制剤－（移植経験者の講話）
- 2022年度第2回栃木県女性薬剤師会研修会（約100人）臓器移植の実際
「道徳」や「人権」、「医学的分野」など、授業や講座の目的に沿った内容で実施致しました。

○授業終了後には様々な感想が寄せられました。

- ・臓器移植を必要としている人たちの辛さや大変さが、実際に経験した人から聞く事ができてよくわかった。（高校1年）
- ・「臓器を提供したくない」と思うことは、悪いことでは無いと知って安心した。（中学1年）
- ・自分は臓器移植とは関係ないと思っていたが、誰にでも起こることだと思った。（中学2年）
- ・毎日を健康的におくれることは、ありがたいことなのだと思った。（中学1年）
- ・臓器提供は自分ひとりで決めずに家族で相談して決めるべきだと思った。（中学2年）
- ・生きていることは「あたりまえ」のことではないから、もっともっと自分の命を大切にしようと思った。（中学1年）
- ・自分とは関係ないと思わずに、病気の人や困っている人に向き合っ、手伝えることなど自分にできることを見つけないと思った。（中学3年）
- ・移植をうけるには、『誰かが死んでしまった』ことが前提だから、命の重みが大きいと思った。（中学3年）
- ・将来、医師か看護師になりたいので、人の命を救うことについていろいろ考えさせられた。（中学2年）
- ・「自己決定」をするためには、そのことを理解するだけでなく、自分はどうのように考えるかが大切だと思った。（中学3年）



院内移植コーディネーター研修会

臓器移植の推進を図るため、協力の得られる県内の医療機関に栃木県院内移植コーディネーターを設置しております。

また、院内移植コーディネーターの資質向上と円滑な臓器提供のために、年3回、研修会を開催していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で2年間開催できず、3年ぶりの開催となりました。

今年度の実施内容等は次のとおりです。

○第46回栃木県院内移植コーディネーター研修会 (令和4年6月：ハイブリッド方式で開催)

1 研修会

(1)「脳死下臓器提供を経験して」

那須赤十字病院院内移植コーディネーター

吉成美津子 氏、野澤美枝子 氏

福西由貴子 氏、清水 美子 氏

大西 茜 氏

(2)「COVID-19感染症対策における臓器移植の現状について」

(公財)栃木県臓器移植推進協会臓器移植コーディネーター

五反田真弓 氏

2 事務局からの連絡

「令和4年度都道府県支援事業費助成金に係る医療機関による臓器移植を円滑に推進するための事業計画について」等

(公財)栃木県臓器移植推進協会 事務局長

斎藤 篤雄 氏

○第47回栃木県院内移植コーディネーター研修会 (令和4年12月：集合開催)

1 研修会

(1)「栃木県院内移植コーディネーターの活動について」

(公財)栃木県臓器移植推進協会臓器移植コーディネーター

五反田真弓 氏

(2)「臓器の移植に関する法律」の運用に関するガイドラインの一部改正について

(公財)栃木県臓器移植推進協会臓器移植コーディネーター

五反田真弓 氏

2 事務局からの連絡

(公財)栃木県臓器移植推進協会の広報活動についての説明

全国でも珍しいプロスポーツチームとの共同企画による啓発活動について等

(公財)栃木県臓器移植推進協会 事務局長

斎藤 篤雄 氏

- 今年度2回目開催後、新型コロナウイルス感染が再び拡大してきたため、今年度3回目の研修会は開催できませんでした。



臓器移植推進サポーター任命式

オリジナル臓器提供意思表示カードの作成・配布や普及啓発ポスターの作成・掲示などで多岐にわたり協力をいただいている『宇都宮ブレックス』との共同企画の一環として、今年度も、ブレックスの有名選手と専属チアリーダーに「栃木県臓器移植推進サポーター」として、幅広く広報普及活動を行っていただいています。

当協会では、去る9月16日(金)に、栃木県医師会において、今年度の「栃木県臓器移植推進サポーター任命式」を行いました。

新たにサポーターに任命したのは、2022年に新たに入団した笠井康平選手と専属チアリーダー「BREXY」のYUNAさんの2名で、当日は、笠井康平選手及びYUNAさんに当協会の稲野秀孝理事長から任命書と臓器移植のシンボルであるグリーンリボンバッジが手渡されました。

笠井康平選手は、「臓器移植がより多く行われるよう、全力で広報活動のお手伝いをさせていただきます。」と抱負が述べられました。

このサポーター任命式や街頭キャンペーンでの普及啓発活動の様子は、TV・ラジオ・新聞等多くのマスメディアで報道され、臓器移植推進に関して、多くのPR効果を生み出しました。



関係団体報告

栃木県腎友会の活動について

栃木県腎友会 会長 長山八洲稔

栃木県腎友会（正式名称：栃木県腎臓病患者友の会）は、県内の医療施設で透析を受けている方々で組織する患者会です。本会の活動について紹介させていただきます。

・透析医療制度を守るために

誰もが等しく公費で透析医療を受けられる現制度を維持し、高齢化する透析患者の介護制度を新たに確立するため、国会請願活動や県保健福祉部に対する要望活動を実施しています。

・健康的な透析ライフを送るために

健康的な透析ライフを送るには、自分の病気を理解し、自己管理能力の向上を図る必要があります。本会では『栃腎友だより』、『あおぞら』発行の他に、新たに設立した「健康長寿部会」が主催する講演会等を開催し、健康に関する情

報提供を行っています。また、会員が日頃抱える病気や生活の悩みを個別に相談できる、各種無料相談会、電話相談会を開設し、ご相談に応じています。

・会員の安心安全のために

新型コロナウイルスの国内感染拡大から約3年が経過しますが、ウイルスが変異を繰り返しており、終息の目途が立っておりません。本会では新型コロナウイルスに関する情報提供を行い、透析患者の感染予防に関する知識と意識の向上を図り、透析施設の院内感染（クラスター）を予防することで、透析を安心・安全に受けられる取組を継続しています。

・透析から離脱するために

腎臓移植は透析から離脱する唯一の医療です。平成22年7月の「改正臓器移植法」の施行以降、栃木県内ではこれまでに多くの透析患者が透析から離脱することができました。今後も県内で献腎移植が進むよう、「ドナー登録」の啓発活動等を実施する「栃木県臓器移植推進協会」に協力していきます。

・将来にわたって会を継続するために

未加入施設に対する加入活動を行い、組織の維持に努めています。さらに、将来にわたって本会を運営できるよう、次世代の担い手を育成するため、ユース部の拡充を図るとともに、SNSによる情報発信にも努めています。

・会員の健康のために（イベント開催等）

本会で主催又は参加する、令和4年度の対面式イベント等の開催については、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、会員の健康を第一に考慮して中止しました。代替として、インターネット（WEB会議・YouTubeアップ等）を利用したイベント等を開催しました。

結びに、本会を御支援くださる透析施設の先生方、スタッフの皆様、また関係各機関の方々に紙面をお借りして感謝申し上げます。

感染症、戦争、異常気象、経済の衰退、少子高齢化等、日本を取り巻く情勢は混沌とし、社会的

弱者は孤独になりがちですが、本会は透析患者の支えになれるよう今後も努めてまいりますので、読者の皆様におかれましても、本会に御理解・御協力くださいますようお願い申し上げます。

院内移植コーディネーターとして

自治医科大学附属病院 看護副部長
亀田 美智子

当院は病床1132床の特定機能病院であり、臓器提供病院としてこれまでに4件の症例に対応しています。

臓器提供病院として、脳死下での臓器提供の申し出に対しスムーズな対応ができるよう実践的なシミュレーションを年に1回行ってきました。しかし、過去2年間は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、集合研修が難しく、マニュアルを配布し各自が確認するのみとなっていました。当院では、この3年間症例の発生がなく、関係者の交代も多かったため、今年度は、全体での研修は必須と考え、Web研修での開催としました。

研修当日は、病院長はじめ、院内の関係者50名と、日本臓器移植ネットワークの大宮氏、栃木県移植コーディネーターの五反田氏にもご参加いただきました。

緊急搬送された患者が脳死状態となり、家族の臓器移植の申し出を受け、ドナー候補者発生から最後のお見送りまで一連の流れを行いました。

司会進行の中、フローに沿って担当者自身が実際のセリフを読み上げる形で進みました。経過の中には、家族間の意見の相違や心の動きも含まれており、状況が進む中で、それぞれのセリフを聞きながら、臨場感と共に緊張感も高まり、約1時間に及ぶ研修は実際の数日間の状況を想起できるものでした。

私はコーディネーターとして2年目であり、実際の経験はありませんが、この研修でタイムスケジュールとともに患者・家族の状況に合わせた院内コーディネーターの役割を明確に理解する

ことができました。また、院内外の多くの人々によって成り立つ医療であることを改めて全員で確認でき、とても有意義な研修となりました。

臓器提供は、終末期医療の選択の一つであり、助けられなかった命を、次の命に繋いでいく、様々な思いをつなぐチーム医療です。その意味と責務を考えながら、常に万全な状態で対応できる体制を整備しておくことは当院の重要な役割であり、身を引き締め取り組んでいきたいと思えます。

今年度のアイバンク活動の現状

公益財団法人 栃木県アイバンク
理事長 小倉 康延

平素より献眼運動に、多くの県民の皆様並びにライオンズクラブを中心にサポーターの皆様には深いご理解とご協力を頂きありがとうございます。目の不自由な方々の為に幸せで生きる喜びを持てるお手伝いをしようとアイバンクの運動の活動を広げて参りました。目の見えない暗闇の世界から移植する事で明るく新たな人生を歩む事ができます様、県内ライオンズクラブが、各市区で栃木県眼科医会の先生方、移植の為のお手伝いを、また病院で働いているスタッフの皆様、本当に感謝しかありません。ほぼ100%ボランティアで移植の為のお手伝いを46年に渡り続けて来る事ができました。

現在、献眼登録者の数は26,659名になりました。令和4年度は献眼して頂いた方が6名おられます。また、これまで角膜提供していただいた方が911名にも及んでおります。新型コロナウイルス感染症の為に移植が進まず、待機患者の皆様には大変つらい時間が続いていたと思いますが、令和5年度は少しでも多くの方々に光を取り戻して頂こうと新しい気持ちと心構えで臨みたいと考えております。PCR検査の確認する事から始まり、時間との戦いになっておりました。移植8時間程度の時間内という事もあり、

これまでに多くの献眼申し出の方々にお断りをして本当に心苦しい寂しい思いをしてきました。

大きな善意な心を実践する事ができる本当のボランティアの方々切ない思いが続いておりましたが今後、基幹病院とも話を進めながらもう少し多くの待機患者様の為にも充実させる為の話し合いを進めていこうと思います。令和3年度6名、令和4年度8名、献眼の申し出をお断りをせざるを得ませんでした。大切な光を取り戻すお手伝いを加速したいと思っております。

今後もアイバンクの理念と活動のPRを進めながら県民の皆様の更なるご協力をお願いいたします。

臓器提供について考えるきっかけ作り

臓器移植推進サポーター (BREXY)
YUNA

皆さんこんにちは！

プロバスケットボールチーム・宇都宮ブレックスチアリーダーBREXYのYUNAです。この度、#3笠井選手とともに臓器移植推進サポーターに任命していただきました。

今年度も昨年度と同様に新型コロナウイルスの影響を受けてPR活動で出来る事が限られてしまい例年行っていた街頭キャンペーンなどは出来なくなってしまいました。ホームゲームでのPR活動やブレックスとコラボレーションした栃木県オリジナルの意思表示カード、笠井選手を起用したポスターなどを通して普及啓発に取り組んでいきます。

なかなか普段の生活の中で、自分自身の臓器移植や臓器提供について考えることは多くないかもしれません。ですが、臓器移植推進サポーターに任命していただいたことにより私は新しく学ぶことがあり、改めて考えるきっかけをいただけたので感謝しています。これからも1人でも多くの皆さんに知っていただけるきっかけになるようにと願いながら、引き続きPR活動に励みたいと思います。

日本の臓器提供件数は、他の先進諸国と比較すると極めて少ないとのこと。その理由の一つは臓器移植について語りにくい社会があるからだと思います。テレビのCMやニュースで目にする機会が以前よりもだいぶ増えてきましたが、実際に臓器提供の意思表示について話したり、それが身近なことだと感じたりする機会はまだまだ少ない気がします。だからこそ家族や近くにいる大切な方々と意思表示のきっかけが作れるように活動していきたいと考えています！

BREXYはブレックスのホームゲームやイベントに来てくださった皆さんへ笑顔と元気をお届けすることはもちろんですが、常にチアリーダーとしてポジティブな気持ちを発信していけるよう努めています。皆さんにも、臓器提供を待っている方々にも、いつも前向きで強い気持ちを持ち続けてほしいと願っています。そして、多くの大切な命のために、今自分にできることを真剣に考えながら活動していきたいです。

栃木県慢性腎不全治療の概要

協会では、前身の腎不全対策協会発足時から20有余年にわたり、毎年、栃木県内の人工透析医療実態調査を行い、透析患者数の推移などについてデータ化し、腎不全治療に役立てていただくため、公表しております。これも透析医療機関の皆様方のお陰でありまして、改めてお礼を申し上げます。

令和3年末における人工透析医療実態調査の主な結果は次のとおりです。

透析患者は、患者数推移のグラフ(P3)でも分かるとおり、急激な増加の時代は終わり、なだらかな増加傾向が続いています。全透析患者数の原疾患別の割合では、慢性糸球体腎炎が26.8% (前年比0.9ポイント減少)、糖尿病性腎症が45.3% (前年比0.1ポイント減少)で、糖尿病の割合は相変わらず多くなっています。次いで、腎硬化症、のう胞腎の順となっております。

1. 人工透析施設の動向

| | 令和3年 | 令和2年 | 令和元年 |
|-----------|-------|-------|-------|
| 透析施設数 | 83 | 80 | 78 |
| 同時透析能力 | 2,864 | 2,860 | 2,804 |
| 患者収容能力(人) | 8,217 | 8,053 | 8,123 |
| CAPD実施施設数 | 10 | 10 | 9 |
| 夜間透析実施施設数 | 37 | 37 | 38 |

2. 透析患者の動向

| | 令和3年 | 令和2年 | 令和元年 |
|---------------|-------|-------|-------|
| (1)透析患者総数(人) | 6,580 | 6,558 | 6,431 |
| 入院患者数 | 518 | 433 | 527 |
| 透析方法 | | | |
| ①血液透析 | 6,461 | 6,418 | 6,311 |
| (うちHDF) | 1,362 | 969 | 820 |
| (うち家庭透析) | 7 | 5 | 7 |
| ②腹膜透析 | 119 | 140 | 120 |
| (血液透析併用含む) | | | |
| (2)透析導入・死亡(人) | | | |
| 年間透析導入患者数 | 839 | 820 | 864 |
| 年間死亡患者数 | 738 | 804 | 705 |

3. 腎臓移植の現況

| | 令和3年 | 令和2年 | 令和元年 |
|----------------|------|------|------|
| (1)年間腎臓移植患者数 | 17 | 19 | 34 |
| 献腎移植 | 0 | 1 | 5 |
| 生体腎移植 | 17 | 18 | 29 |
| (2)腎臓移植者総数(累計) | 667 | 650 | 631 |
| 献腎移植 | 94 | 94 | 93 |
| (3)臓器提供者数(年間) | 1 | 1 | 2 |
| { 献腎(心停止後腎臓提供) | 0 | 0 | 0 |
| { 脳死下臓器提供 | 1 | 1 | 2 |
| 臓器提供者数(累計) | 32 | 31 | 30 |

【参考】 血液透析患者の週当たりの透析回数と時間(CAPD、HDの併と在宅透析は除く)

| | | |
|-----|------------|--------|
| 週3回 | 5時間以上 | 408人 |
| 週3回 | 4時間以上5時間未満 | 4,421人 |
| 週3回 | 4時間未満 | 1,463人 |
| 週2回 | 5時間以上 | 5人 |
| 週2回 | 4時間以上5時間未満 | 49人 |
| 週2回 | 4時間未満 | 80人 |
| 週1回 | 5時間以上 | 1人 |
| 週1回 | 4時間以上5時間未満 | 14人 |
| 週1回 | 4時間未満 | 13人 |

腎臓を大切に：CKD（慢性腎臓病）は2人に1人がかかる国民病

腎臓は昼夜なく1年365日働きつづけており、歳と共に次第に機能が衰えてゆきます。80歳を過ぎると2人に1人は若い頃の6割程度になり、CKD（Chronic Kidney Disease；慢性腎臓病）と診断されます。すなわちCKDの生涯罹患リスクは50%で、がんと同様に高率です。そして日本ではCKDの推定患者数は1300万人で、国民400人に1人は尿毒症に至って透析や腎移植を受けています。また尿毒症に至るよりかなり前から、心臓病、脳卒中など命に関わる合併症のリスクが増加します。ところがこのCKDという病名を知る人は国民の1割未満です。

私たちRAV-CKD（CKD啓発動画研究会）はCKD認知率向上を目指して、2010年秋より啓発動画の製作と、YouTube公開（図1）を続けており、活動開始から13年目に入った2023年1月時点で総再生回数は33万回を越えています。さらに2021年7月から開設したインスタグラムのアカウント（図2、QRコード）はフォロワーが1年で171人から1500人に増え、日本に限らず世界中の若い世代への情報発信を目指しています。

また動画配信以外に、CKD啓発支援音楽コンサートや健康のための公開運動イベントも手がけています。2020年から延々とつづくCOVID-19パンデミック下でも、感染リスクを避けるためにインターネットを活用して途絶えることなく開催しており、2022年は宇都宮の会場から2月27日（図3）、6月19日にオンラインコンサート（図4）を開催しました。今年5月14日（日曜）午後、新潟市で啓発支援コンサートを予定しております。

田川スロージョギングという公開運動イベントも、最初に開催地とした宇都宮の田川ぞいに限らず県内各地や茨城県で少人数のグループを作り、それぞれのグループをLINEミーティングというビデオ通話アプリを用いてハイブリッド形式で昨年春秋に開催（図5）し、今年も4月と10月の日曜に開催予定です。

図4 2022年6月19日開催のオンラインコンサート



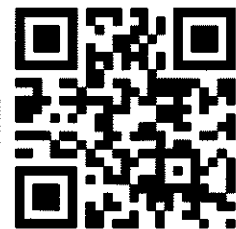
6/19 トリオフルール コンサート 2022 宇都宮

図5 2022年10月9日開催のオンラインハイブリッド版田川スロージョギング



第11回STEC田川スロージョギング

図6 RAV-CKDホームページ

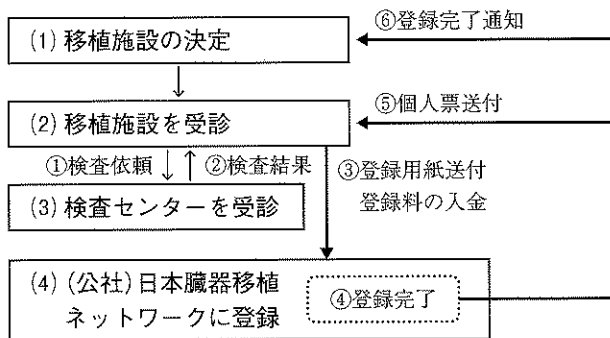


これら活動の長期継続を通して、今後CKDの認知が拡がることを願っています。皆様もぜひRAV-CKDホームページ（図6、QRコード）から上記でご紹介した各種動画やInstagramのアカウント（図2、QRコード）の写真と動画をご覧ください、CKDの認知度向上にご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

2023年2月 RAV-CKD代表幹事 安藤 康宏
（国際医療福祉大学予防医学センター・腎臓内科）

献腎移植希望の登録について

献腎移植を希望する場合は、(公社)日本臓器移植ネットワークに登録しなければなりません。栃木県での手続きは次のとおりとなります。



(1)移植施設の決定（栃木県の場合）

腎臓 自治医科大学附属病院／獨協医科大学病院
※担当医師とよく相談し、紹介状を書いてもらいます。なお、上記病院の電話番号は次のとおりです。自治医科大学附属病院（Tel0285-44-2111）、獨協医科大学病院（Tel0282-86-1111）

(2)移植施設を受診

健康保険証、身体障害者手帳、紹介状を持参し受診します。

(3)検査センターを受診（栃木県の場合）

◆自治医科大学附属病院 輸血・細胞移植部

◆獨協医科大学病院 臨床検査部

組織適合検査(採血のみ)を行います。検査費用は施設によって異なりますが、4万円前後です。

- ①腎臓のほかに、脾臓及び脾腎同時移植でも組織適合性検査（HLA）が必須となります。
- ②腎臓、脾臓及び脾腎同時移植に係る組織適合性検査費用に対しては一部助成制度があるので、(公財)栃木県臓器移植推進協会（Tel028-625-7350）に確認してください。

(4) (公社)日本臓器移植ネットワークに登録

登録料は3万円です。次の年からは更新料として毎年5千円かかります。

なお、登録料及び更新料は医療費控除の対象となります。また、生活保護世帯の方や生活保護世帯以外の生活困窮者の方は費用が減免になります。

詳しくは、(公社)日本臓器移植ネットワークのホームページ(www.jotnw.or.jp)で御確認ください。

(5)次の臓器も栃木県の医療機関で移植を受けることができますが、いずれも(公社)日本臓器移植ネットワークへの移植登録が必要となります。

肺 獨協医科大学病院

肝臓 自治医科大学附属病院

脾臓 自治医科大学附属病院／獨協医科大学病院

小腸 自治医科大学附属病院

(6)臓器提供、臓器移植の現状

令和4（2022）年（1～12月）中に、日本で行われた臓器提供は108件あり、うち脳死での提供が93件、心停止後の提供が15件ありました。この期間の栃木県内では、臓器提供事例が1例ありました。また、これらの提供により、455名の方が移植を受けることができました。

移植者の現状は次のとおりです。

| | 平均待機期間 (移植希望登録日から移植日までの期間) | 移植後 5年後の 生存率 |
|-----------|-------------------------------|--------------------|
| 心臓・心肺同時移植 | 約3年5ヶ月 | 93.1% |
| 肺・心肺同時移植 | 約2年5ヶ月 | 74.4% |
| 肝臓・肝腎同時移植 | 約1年3ヶ月 | 83.4% |
| 脾臓・脾腎同時移植 | 約3年3ヶ月 | 92.3% |
| 小腸移植 | 約8ヶ月 | 77.6% |
| 腎臓移植 | 約14年8ヶ月 | 91.2% |

日本臓器移植ネットワーク「News Letter vol.25 2022」より

透析医療機関のみなさまへ

透析患者さんの不測の事態に備え、「緊急透析患者カード」を配布しています。

御希望の透析医療機関は、「公益財団法人栃木県臓器移植推進協会」までお申し出ください。

オモテ

| | | | | |
|--|----------------|-------|------|----|
| 緊急 | 透析患者カード | | | |
| <p>私は腎不全のため透析治療を受けています。 もし、気を失ったり、倒れていた時は、最寄りの医療機関に運ぶとともに、すぐに下記の透析医療機関に通報して下さい。</p> | | | | |
| <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>病・医院名</td> </tr> <tr> <td>電話番号</td> </tr> <tr> <td>住所</td> </tr> </table> | | 病・医院名 | 電話番号 | 住所 |
| 病・医院名 | | | | |
| 電話番号 | | | | |
| 住所 | | | | |

ウラ

| | | | | | |
|--|------------|---|---|----|------------|
| 緊急 | 氏名 | | | | 血液型 () |
| 生年月日 | M T S H | 年 | 月 | 日生 | |
| 住所 | | | | | |
| 自宅 | 電話 | | | | |
| 非常時連絡 | 電話 | | | | |
| 公益財団法人 栃木県臓器移植推進協会 電話 028-625-7350 | | | | | |

事務局通信

平成26年度から「臓器移植普及推進のための募金運動」を展開しており、今年度も多くの機関から御支援をいただきました

本誌上をお借りして、厚くお礼申し上げます。(敬称略)

●医療機関（募金収納順）

平野外科医院
 そはら内科
 医療法人社団洋精会沼尾病院
 医療法人慈恵会白澤病院
 医療法人仁明会櫻井内科診療所
 医療法人加藤クリニック
 医療法人大梓会かるべ皮フ科小児科医院
 医療法人徳真会真岡病院
 医療法人仁山会中山内科医院
 (医)昌慶会おおくぼみみはなのどクリニック
 医療法人おかべこどもクリニック
 医療法人遠藤小児科医院
 (医ナイルス)宇都宮腎・内科・皮膚科クリニック
 医療法人北村クリニック
 医療法人大香会みやの杜クリニック
 富塚メディカルクリニック
 武田整形外科
 稲野医院
 医療法人信和会石川医院
 医療法人ヒポクラテス竹村内科・腎クリニック
 医療法人宇都宮健康クリニック
 那須赤十字病院
 (医)心和会ししど内科胃腸クリニック
 医療法人博愛会杉村病院
 医療法人慈誠会橋本腎内科クリニック

吉原医院
 宇都宮整形外科内科クリニック
 医療法人泉心会坪水医院
 医療法人誠之会氏家病院
 医療法人開生会奥田クリニック
 医療法人仙寿会山本整形外科医院
 医療法人社団一水会橋本医院
 医療法人徳真会ましご令和クリニック
 医療法人くろさきこどもクリニック
 医療法人平和会足利腎クリニック
 社会医療法人中山会宇都宮記念病院
 医療法人清仁会吉沢眼科医院
 医療法人慈仁会飯塚医院
 医療法人環の会真岡メディカルクリニック
 佐野医院
 青い鳥こどもクリニック
 西那須野内科循環器科クリニック
 和久医院
 医療法人社団慶生会目黒医院
 (一社)巨樹の会新宇都宮リハビリテーション病院
 医療法人裕智会大橋内科クリニック
 医療法人社団廣和会両毛クリニック
 医療法人佐藤皮フ科クリニック
 医療法人都賀中央病院
 地方独立行政法人栃木県立岡本台病院

手塚耳鼻咽喉科医院
 医療法人社団松島眼科医院
 医療法人社団徳仁会中野病院
 (医社)順英会アイ・こころのクリニック
 医療法人桃李会御殿山クリニック
 社会福祉法人章佑会養護老人ホーム若草園
 医療法人社団医心会中川内科クリニック
 医療法人社団大栗内科
 医療法人貴和会大野内科医院
 医療法人博友会原眼科医院
 医療法人恵会皆藤病院
 済生会宇都宮病院
 医療法人帯経会さくら産院
 医療法人環の会芳賀メディカルクリニック
 きぬの里クリニック
 上野医院
 小菅胃腸外科クリニック
 医療法人千秋会大場医院
 (医社)ヨゼフ会宇都宮東口ストレスクリニック
 医療法人秀和会山川耳鼻咽喉科医院
 医療法人寿泉会小林診療所
 (医社)オードヴィーこひらメディカルクリニック
 (医) 柏木医院 柏木耳鼻咽喉科医院
 医療法人社団二樹会村山医院
 足利赤十字病院

| | | |
|------------------------|-------------------|---------------------|
| 医療法人緑水会川野クリニック | 獨協医科大学病院 | (一財)とちぎメディカルセンター |
| 医療法人小山すぎの木クリニック | 公益財団法人栃木県保健衛生事業団 | (公社)栃木県柔道整復師会 |
| (医)都賀中央医院しもつけ腎・内科クリニック | 医療法人増山胃腸科クリニック | 医療法人修英会中川医院 |
| 医療法人社団小沼内科胃腸科クリニック | 自治医科大学附属病院 | 医療法人渡部医院 |
| 医療法人中谷医院 | 医療法人新島クリニック | (医)健寿会小山整形外科内科 |
| ひらいで公園腎クリニック | はらクリニック | 小林医院 |
| えぐち内科クリニック | なかたクリニック | 小嶋内科 |
| 小野整形外科 | せき内科・胃腸科クリニック | さいとう医院 |
| 医療法人深澤クリニック | 社会福祉法人篤和会 | (医)弘真会二宮中央腎・健診クリニック |
| (医)弘真会二宮中央クリニック | 栃木県保健医療生協宇都宮協立診療所 | (医社)黒須整形外科医院 |
| (医)みやび樹レディースクリニック | 医療法人水韻会柏倉医院 | 医療法人社団寛久会 山田クリニック |
| 医療法人東宇都宮クリニック | 医療法人飯野医院 | 島田医院 |
| 栃木リウマチ科クリニック | 山崎小児科医院 | こどもヶ丘診療所 |
| おおはしアイクリニック | | |

●県庁各課室、出先機関及び宇都宮市（募金収納順）

| | | | |
|------------------------|-------------------------|------------------|------------------|
| 経営管理部財政課親睦会 | 栃木県農業大学校 | 企業局電気課親睦会 | 環境森林部自然環境課 |
| 真岡県税事務所 | 県土整備部住宅課 | 保健福祉部指導監査課 | 栃木県人事委員会事務局 |
| 県土整備部道路整備課 | 県土整備部都市計画課 | 県南技術支援センター | 県民生活部人権・青少年男女参画課 |
| 矢板県税事務所 | 経営管理部職員厚生課 | 下水道管理事務所 | 県土整備部技術管理課親睦会 |
| 環境森林部森林整備課 | 教育委員会事務局施設課 | 栃木県税事務所とちの和会 | 安足土木事務所親睦会 |
| 農政部経済流通課 | 保健福祉部業務課親睦会 | 県民生活部県民文化課有志一同 | 経営管理部人事課 |
| 保健福祉部高齢対策課親睦会 | 鹿沼土木事務所 | 環境森林部林業木材産業課 | 栃木県監査委員事務局 |
| 環境森林部環境保全課 | 栃木県会計局会計管理課親睦会 | 繊維技術支援センター | 企業局板室管理支所 |
| 県北産業技術専門学校 | 産業労働観光部労働政策課 | 栃木県立美術館親睦会 | 栃木県精神保健福祉センター |
| 栃木県庁総務事務センター | 足利労政事務所 | 栃木県日光土木事務所 | 県土整備部用地課 |
| 安足農業振興事務所職員有志一同 | 栃木県安足県税事務所 | 那須広域ダム管理支所 | 県北環境森林事務所 |
| 栃木県河内農業振興事務所 | 産業労働観光部国際課 | 産業労働観光部経営支援課 | 農政部農政課 |
| 上都賀教育事務所 | 栃木県総合教育センター | 栃木県農業試験場いちご研究所 | 小山労政事務所親睦会 |
| 教育委員会事務局学校安全課 | 烏山健康福祉センター | 教育委員会事務局生涯学習課 | 矢板森林管理事務所 |
| 県民生活部広報課はるかぜ会 | 宇都宮県税事務所 | 総合政策課・デジタル戦略課親睦会 | 塩谷南那須教育事務所 |
| 県民生活部危機管理課 | 今市健康福祉センター | 県民生活部消防防災課 | 北那須水道事務所親睦会 |
| 鹿沼県税事務所 | 県北健康福祉センター | 農政部畜産振興課 | 自動車税事務所八千代会 |
| 産業労働観光部工業振興課 | 動物愛護指導センター | 保健環境センター | 栃木県農業試験場 |
| 企業局鬼怒水道事務所 | 農政部生産振興課 | 企業局水道課 | 県土整備部建築課親睦会 |
| 県南健康福祉センター | 教育委員会事務局文化財課 | 保健福祉部保健福祉課 | 教育委員会事務局高校教育課 |
| 県東健康福祉センター | 栃木県障害者総合相談所 | 大田原県税事務所 | 栃木県中央児童相談所 |
| 栃木県水産試験場 | 栃木県計量検定所 | 県土整備部道路保全課 | 河内教育事務所親交会 |
| 国体・障害者スポーツ大会事務局競技典課親睦会 | 栃木県公園事務所 | 商工労働観光部観光交流課 | 環境森林部資源循環推進課 |
| 保健福祉部健康増進課むつみ会 | 県立衛生福祉大学校 | 塩谷南那須農業振興事務所 | 保健福祉部感染症対策課 |
| 教育委員会事務局特別支援教育室 | 那須教育事務所 | 農政部農地整備課 | 栃木県消防学校 |
| 県南高等看護専門学校 | 県民生活部統計課親睦会 | 保健福祉部国保医療課親睦会 | 県西健康福祉センター |
| 保健福祉部生活衛生課 | 国体・障害者スポーツ大会事務局施設調整課親睦会 | 下都賀教育事務所 | 栃木県立博物館 |
| 栃木県立図書館 | 栃木県立栃木特別支援学校 | 宇都宮市保健所保健予防課親睦会 | 県立南那須特別支援学校 |
| 栃木県県西県境森林事務所 | 栃木県農業環境指導センター親睦会 | 教育委員会事務局義務教育課親睦会 | 栃木県立盲学校（2回） |
| 栃木健康福祉センター | 県土整備部砂防水資源課 | 上都賀農業振興事務所 | 栃木県林業センター職員一同 |
| 宇都宮青葉高等学園 | 県土整備部監理課 | 県南児童相談所 | 保健福祉部障害福祉課親睦会 |
| 県南家畜保健衛生所 | 栃木県東京事務所親睦会 | 矢板土木事務所親睦会 | 今市発電管理事務所 |
| 県東環境森林事務所 | 栃木県県東健康福祉センター | 栃木県畜産酪農研究センター親交会 | 大田原土木事務所 |
| 栃木県産業技術センター | 保健福祉部医療政策課 | | |

●募金機関：249機関

●募金総額：1,400,794円（令和5年2月20日現在）

支援型飲料自動販売機の設置について（お願い）

当協会は、財産運用収入が年々減少し、収入確保が課題の一つとなっております。

そのため、収入の増加とPR強化を目的に、平成29年度からFVジャパン(株)、平成30年度からコカコーラボトラーズジャパン(株)の御協力で、支援型飲料自動販売機の設置事業を開始いたしました。この事業は、自販機の設置者様が指定する公益団体に売上の一部（寄付額は任意）を寄付するもので、飲料購入者も間接的に公益事業を支援するものです。自販機にはチラシなどを掲示でき、オリジナルデザインの自販機を設置することもできるため、PR効果も期待できます。

平成30年度に県内で初めて当協会の自販機を設置し、令和3年度末で7台が稼働していました。今年度になって1台減ってしまいましたが、新たに宇都宮市鶴田2丁目の医療法人ナイルス宇都宮腎内科皮膚科クリニックでご賛同いただき、自販機を追加することができました。

県内では現在7台が稼働しており、これらの自動販売機からは毎月寄付金をいただいているほか、臓器移植推進PRにも貢献しています。

この支援型飲料自動販売機の設置事業に御理解をいただき、広く、医療機関開設者の皆様に自販機の設置に御協力くださるようよろしくお願い申し上げます。詳しくは当協会事務局にお問い合わせください。（TEL 028-625-7350）

○既に設置している医療機関等は次のとおりです。

獨協医科大学病院
医療法人慈啓会白澤病院
自治医科大学附属病院
済生会宇都宮病院
栃木県職員生活協同組合
1台（県庁本館5階健康増進課前）
医療法人青木眼科医院
医療法人ナイルス宇都宮
腎内科皮膚科クリニック



宇都宮腎内科皮膚科
クリニック

※宇都宮腎内科皮膚科クリニックはじめ上記機関からは毎月寄付金をいただいております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

編集後記

○協会だより第33号(令和4年度版)を発刊し、皆様にお届けすることになりました。これも偏に、お忙しい中御尽力をいただきました関係者の皆様のお陰であり、厚く御礼を申し上げます。

○臓器移植法が施行されてから、県内の病院において16件の脳死下臓器提供が行われましたが、今なお、県内においては208名を超える方々が移植を希望されている現状にあり、一層の啓発活動が必要であります。

○今期も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臓器移植普及推進街頭キャンペーン

の小規模開催など普及啓発活動がかなり制限されてしまいましたが、いちご一会とちぎ国体等の啓発活動実施やコロナ禍前より多く「命の学習会」を開催することができました。

コロナウイルス感染拡大の早期収束を願うとともに、日夜感染症に対応している医療関係者の皆様にこの場をお借りして心から感謝申し上げます。

○これからも臓器移植普及推進のため、微力ながら精一杯、努めさせていただきますので、皆様のより一層の御理解、御支援と御協力をお願いいたします。（S 生）